

浦川原と直江兼続の足跡を訪ねて

―第六回ふるさと訪問旅行―

東京浦川原会 会長 小菅 俊信

上越地方は雨期に入ってひととき美しい緑の濃さを増しあてやかな初夏の季節を迎えています。

東京浦川原会は平成二十一年六月二十日～二十一日にふるさと訪問旅行が実施されました。一行二十七名が午前十一時にうらがわら駅に集結、総合事務所バスに乗車、まず浦川原総合事務所を表敬訪問する。新任荒木所長のお出迎えられ歓迎の意を述べ、集落の最近の様子など説明され一行の労をねぎらわれた。

事務所を後にバスは春日山へ走行、県道の右も左も見渡す限り水田が続く米どころ頭城平野を眺めながら目的地春日山城に到着、入り口の石垣には謙信の銅像が川中島方面に向かって立っている、また春日山屋敷跡やお堂などの史跡をたどる、上杉謙信が出陣前に先勝を祈願した

という毘沙門堂、兼継ぐが住んでいたという直江屋敷跡、春日山神社など見所が多い、また高台からの眺望も素晴らしい。

そこを後に春日山ものがたり館へ直行、謙信亡きあと上杉景勝・影虎が壮絶な跡目争いを繰り広げる、御宿の乱の跡地を見学。その後春日山ものがたり館を見学、そこには上杉謙信公や当時の春日山城の様子、川中島合戦図屏風や発掘調査の出土品が展示されていた。移動して海岸に近い直江津屋台会館を見学、スタジオセット・体験エリアでは春日城本丸御殿のセットを再現、スタジオでの撮影の様子が体験できます、またスタンバイエリアなど普段見ることができないドラマの裏舞台も紹介されていた。

会場を後に一行のバスは体験宿泊地の「月影の郷」に到着、バスを降りると緑に包まれた閑静さだけが気持ちいを和ら

げてくれる。早速餅つきの準備が整っていた、ふるさとの思い出、餅をつくらつきあがった餅は小さくちぎり手のひらにのせて「アン」を入れ笹の葉に包む作業班と二手にわかれ笹餅を完成させた。田舎で過ごした懐かしい時間が蘇った。

夕刻六時過ぎより地元役職者や友人と合同懇親会を開催、山の幸をふんだんに盛り込んだ夕食、名物のつべ汁は絶品だおにぎりも大好評だった、地酒を酌み交わしながら華やいた雰囲気の中に一日が終わった。

二日目は宿舎のみなさんに別れを告げ、バスは南魚沼市へと向かう、いくつもの峠を越えトンネルをくり貫いた会場は南魚沼市六日町です、直江兼続生誕地、さっそく会場では愛と義に生まれた武将直江兼続戦国時代を描いた武者絵や歌時絵など・・・

正面にそびえる坂戸城(634m)を目にする、その昔景勝・兼続が若き日を過ごした場所である、直江兼続公伝説館を見学後「金城館」にての昼食はお立ち飯(おたちめし)である、その料理は上杉軍は合戦に臨む際に、家臣の士気を高めるために大量の飯を炊き酒樽を用意し料理を振る舞ったと言う、その後雲洞庵(うんどうあん)を訪れる、越後の一荘の古木に包まれ森閑とした雰囲気の中に

佇むお寺、参道の敷き石には法華経が刻まれ参拝すると利益があるとか・・・雲洞庵で景勝・兼続は幼少の頃住職から学問を学び二人は共に四書・五経を初め中国の古典にも造詣が深く戦国時代の武将の中でも特に教養を備えていたと言われています。

最後に浦佐毘沙門堂に参拝、ここは上杉謙信・景勝が訪れたと伝えられている寺です、毎年三月三日に行われる「押搾合祭り」は日本三大奇祭として知られている。一行はJR六日町駅前にて、一泊二日の行程も無事に終了し、来年の再会を約して解散となった。

